

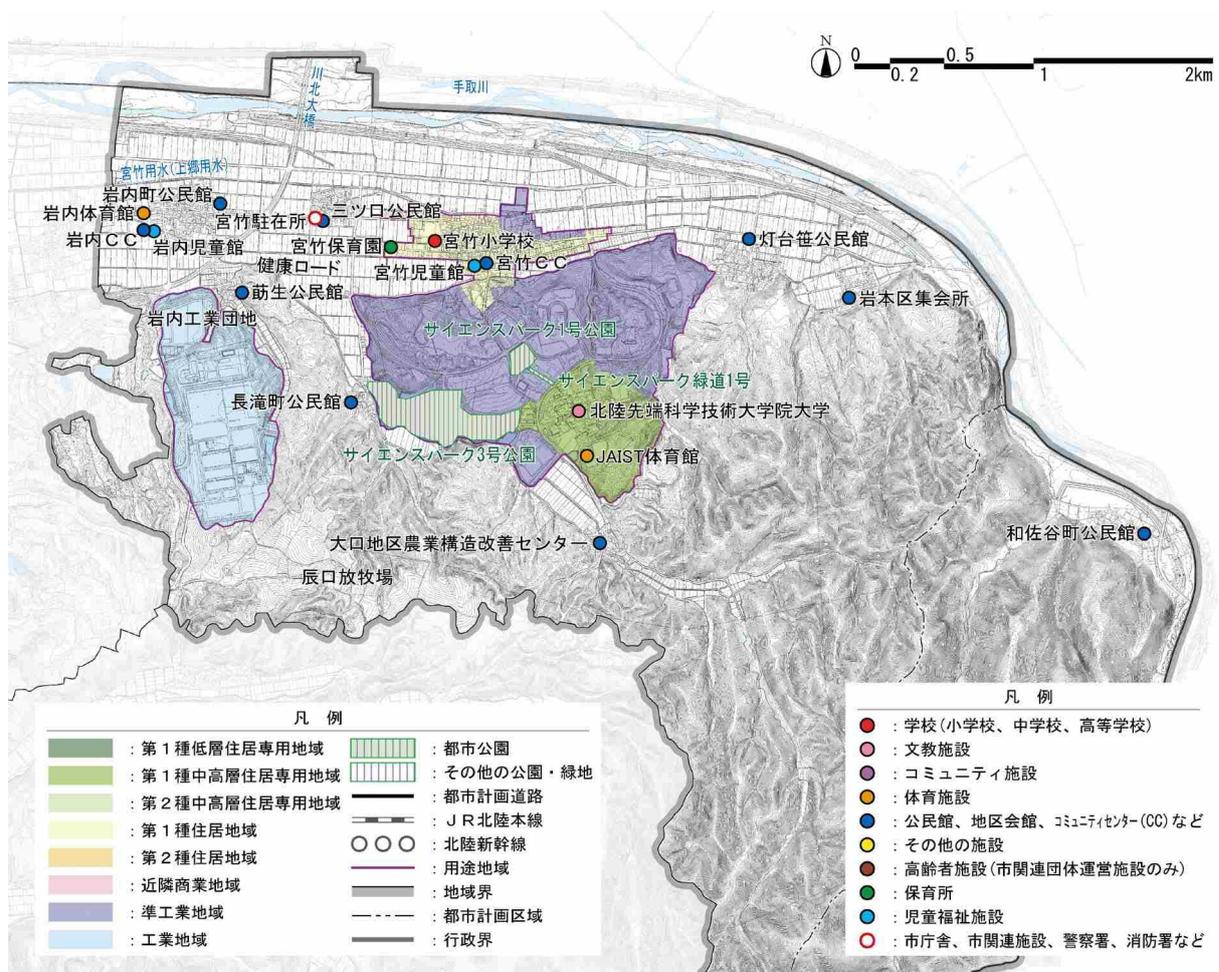
## 8. 宮竹地域

### 1) 地域の現況

#### (1) 概況

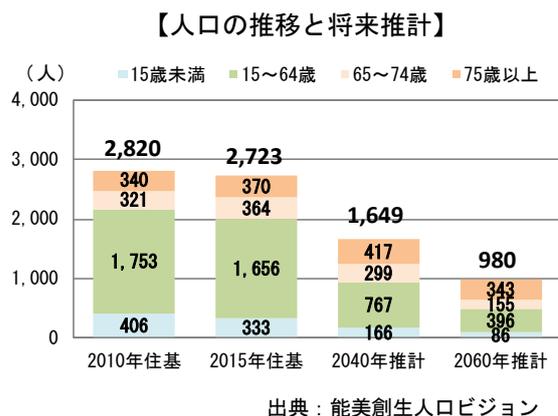
- ・手取川の扇状地の扇中央部に開かれた宮竹町を中心に9の集落が点在しています。この平野部の中央には宮竹用水が流下し農地をうるおしています。また、地域の大半が里山地区であり、みどり豊かな自然環境が広がっています。
- ・中心部には宮竹小学校が位置し、丘陵地には、北陸先端科学技術大学院大学を核とした研究開発拠点であるいしかわサイエンスパークや岩内工業団地などの産業集積地が整備されているほか、観光・レクリエーション施設である辰口放牧場があります。
- ・北陸先端科学技術大学院大学の隣接地には地域住民も利用できる地域交流機能を備えた体育館が整備されています。

【地域の現況図】



## (2) 人口

- 人口は2015年時点で2,723人であり、2010年から2015年にかけて減少しており、2040年には2015年比で約4割減少(▲1,074人)すると推計されています。
- 年齢構成は、2015年時点は65歳以上が27%でしたが、2040年には43%になり、特に75歳以上が25%になると推計されています。



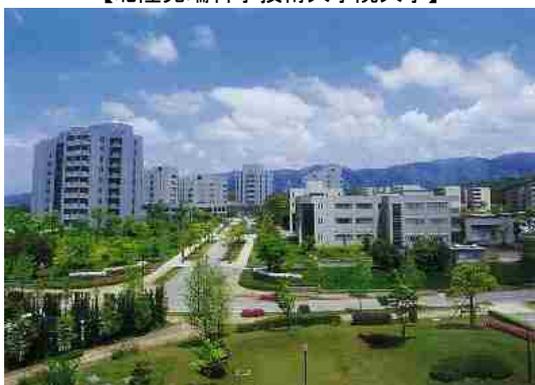
## (3) 交通

- 本地域には市外および市内の他地域へアクセスできる幹線道路として、(主)小松鶴来線や(市)三ツ口岩本線などが横断しており、2015年無料化された川北大橋を通る加賀産業開発道路と連絡しています。 ※(市)：市道
- 丘陵地には和気地域および小松市とつながる(主)小松辰口線や(市)岩内金剛寺線などが地域を縦断しています。また、東端には国道157号が縦貫しています。
- 民間交通事業者によるバス交通が運行するほか、コミュニティバス「のみバス」については、JR能美根上駅を起終点とする連携バスが運行しており、辰口循環バスと連絡しています。

## (4) 地域環境

- 手取川に接する地域の北部にはまとまった優良農地があり、豊かな田園景観が広がりを見せています。
- 市の名勝である市指定文化財の七ツ滝や岩根宮などのほか、観光・レクリエーションが楽しめる辰口放牧場があります。

【北陸先端科学技術大学院大学】



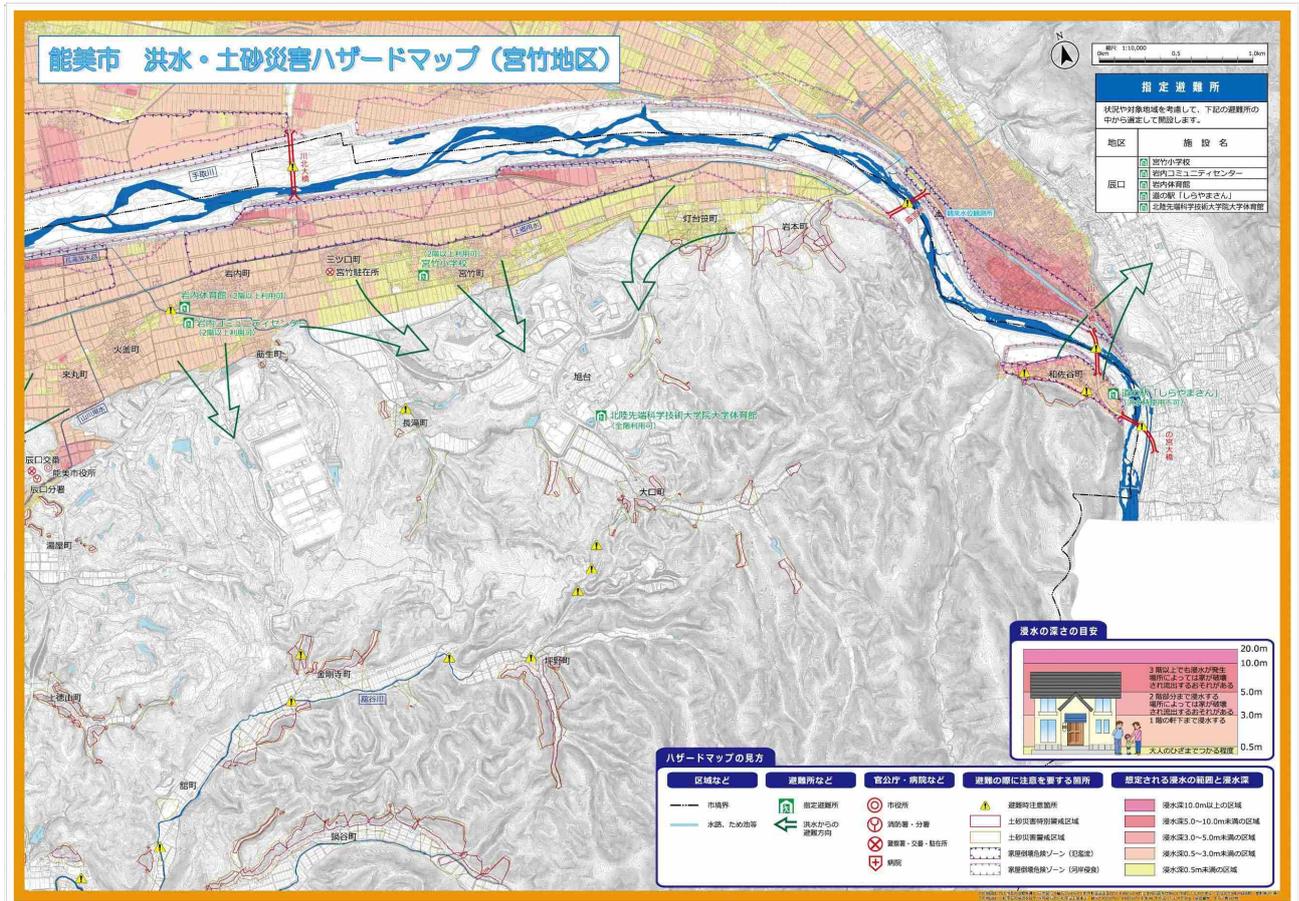
【岩根宮】



(5) 災害

- ・本地域では河川の洪水による浸水想定区域が手取川沿岸全域に指定されているほか、土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域が山間部で指定されています。

【洪水・土砂災害ハザードマップ】



## (6) 住民意向

- ・市民満足度調査（2017年都市計画関連分野）では、地域全体の平均値よりも満足度の値が低く、重要度の値が高い項目として、「暮らしの質の向上」「道路の維持・整備」「公共交通の充実」が挙げられます。
- ・これまでのタウンミーティングでの主な意見は、「定住促進助成金の要件緩和・拡充」「税制優遇による移住定住の促進」「森林資源の活用策、今後の管理」「いしかわサイエンスパークの整備促進」「人口減少への対策」「のみバスの利便性向上」「高校生の公共交通の利便性向上」「七つ滝の活用」などが挙げられました。

### 【満足度・重要度】

	満足度	重要度
<b>評価が高い項目</b>	①居住環境の充実 ②工業の振興 ③暮らしの質の向上	①公共交通の充実 ②道路の維持・整備 ③水環境の保全と活用
<b>評価が低い項目</b>	①観光と交流の促進 ②商業の振興 ③適正な土地利用の推進	①歴史・文化・伝統の継承 ②観光と交流の推進 ③里山・自然の保全と活用

※1 下線は地域全体の平均値よりも満足度の値が低く、重要度の値が高い項目 出典：市民満足度調査（2017年）

※2 次の項目はいずれの地域においても上位を占め、地域差がみられないため除外した

満足度：「上下水道の維持・整備」「歴史・文化・伝統の継承」「里山・自然の保全と活用」「水環境の保全と活用」

重要度：「上下水道の維持・整備」

## 2) 地域の課題

地域全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活に必要な都市機能が集積した地域生活拠点としての機能の維持・充実</li> <li>・人口減少に対応した活性化策の検討</li> <li>・空き家・空き地の有効活用</li> <li>・いしかわサイエンスパークの研究機能の集積を活かした「研究開発拠点」としての機能拡充</li> </ul>
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いしかわサイエンスパークの利活用の促進</li> <li>・適正な土地利用の誘導による自然豊かな里山や優良農地の保全および集落の維持・活性化</li> <li>・幹線道路沿線における住宅や都市機能の誘導</li> </ul>
都市施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域交流施設の利活用の促進</li> <li>・民間路線バスと連携した、のみバスを含めた公共交通の利便性向上</li> </ul>
地域環境・地域資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財の景観・環境の保全と活用</li> </ul>
安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急傾斜地における土砂災害への対策</li> <li>・河川の水環境保全や治水対策および災害時の避難場所・避難経路の確保</li> </ul>

### 3) 将来像・地域づくりの基本方針

#### (1) 地域の将来像

## 里山と田園の美しい環境を保全し、 “住・学・産”が連携した活気ある地域づくり

北陸先端科学技術大学院大学を核とした「いしかわサイエンスパーク」において、先端産業のさらなる集積による拠点機能を高めるとともに、地域と学生の交流を促進し、大学門前町としてにぎわいと活気のある地域づくりを進めます。

また、宮竹小学校を中心として日常生活に必要な拠点機能を高め、集落間との連携を強化することで、集落の維持・活性化を図るとともに、移住・定住の促進などによる地域振興を図ります。

#### (2) 地域づくりの基本方針

##### ① 土地利用・拠点整備の方針

いしかわサイエンスパークにおける産業集積や大学門前町としての生活拠点の機能強化を図るとともに、幹線道路沿線における生活利便施設の誘導や里山・山間地区の豊かな自然環境の保全・活用などにより、地域活性化に資する土地利用を図ります。

#### A. 都市系

住居地	一般住宅地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の中央に位置する宮竹町は本地域の中心的集落であり、未利用地への適正な土地利用の誘導により住宅地としての居住環境の向上を図ります。</li> <li>● (主) 小松鶴来線沿線では、地域の活力維持を図るため、移住・定住による宅地需要を踏まえながら、住宅地区としての土地利用を検討します。</li> </ul>
商業地	沿道商業・業務地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 加賀産業開発道路沿線では、交通利便性を活かし、田園・集落との調和を図りながら、日常生活の利便性向上や地域活性化に資する商業・業務系の土地利用の誘導を検討します。</li> </ul>
工業地	産業集積地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 岩内工業団地周辺においては、自然環境に配慮しつつ、良好な産業集積地としての土地利用を図ります。</li> </ul>
	研究開発地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>● いしかわサイエンスパークにおいては、研究開発の拠点として北陸先端科学技術大学院大学を核としたICT関連施設や先端技術関連の産業施設などの誘致を進めるとともに、学生などの生活利便性の向上に配慮した土地利用を図ります。</li> </ul>

## B. 田園・自然系

集落・田園地域	集落地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本地域に点在する集落部においては、将来的にもコミュニティを維持していくため、空き家・空き地も活用しつつ、生活利便施設も含めた住居系土地利用の誘導を図り、集落の活力維持および活性化を図ります。</li> </ul>
	田園地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 田園部の良好な農地については、無秩序な開発による土地利用の混在を防止し、本市を特徴づける良好な田園環境として保全します。</li> </ul>
自然活用地域	レクリエーション地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 辰口放牧場については、良好な自然環境と調和した土地利用の規制・誘導を図ります。</li> </ul>
	手取川沿岸地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 手取川沿岸については、河川敷の貴重な水生生物や自然植生が生息しており、将来にわたって自然環境の保全に努めるとともに、自然学習や憩いの場として活用します。</li> </ul>
	里山地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 里山地区については、比較的なだらかでみどり豊かな丘陵地の特性を活かし、防災面に配慮しながら自然と調和した里山景観の維持・保全を図ります。</li> <li>● 地域の交流やにぎわいの創出に向け、利用適地においては6次産業化施設などの地域振興に資する土地利用を検討します。</li> <li>● 里山地区の集落部においては、古くからのコミュニティを維持していくため、里山の魅力を活かした移住・定住の促進などによる活力維持および活性化を図ります。</li> </ul>
自然保全地域	山間地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>● みどり豊かな森林や貴重な動植物など、多くの自然が残り水源涵養といった重要な役割も担っている山間地区については、良好な自然環境の保全に努めます。</li> </ul>

## C. 拠点

まちづくり拠点	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 北陸先端科学技術大学院大学を核とした「いしかわサイエンスパーク」において、大学との連携によるAIやIoTの推進や先端産業の誘致を図るとともに、「研究開発拠点」としての機能拡充や「いしかわサイエンスパーク」のさらなる利活用の促進を図ります。</li> </ul>
地域拠点	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 宮竹小学校周辺においては、大学門前町としての居住や日常生活に必要な機能の集積および交通機能の充実などによる「生活拠点」を形成します。</li> </ul>

## ②都市施設の整備方針

加賀産業開発道路などの幹線道路の維持・充実や公共交通の利便性向上などにより、地域内外との交流や連携を強化します。

## A. 交通施設

主要幹線道路 (基幹都市軸)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 加賀産業開発道路や（主）小松鶴来線は市外および他地域と連絡する大動脈であり、機能維持による地域内外の連携強化を図ります。</li> </ul>
幹線道路 (地域連携軸)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● （主）小松辰口線については、地域の中心部やいしかわサイエンスパークを通り、他地域や小松市をつなぐ路線であり、適切な維持管理による機能の維持・拡充に努めます。</li> </ul>
主要な生活道路	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 幹線道路や市街地と集落間のネットワークを形成する主要な生活道路については、今後も地域の利便性を確保するために適切な維持管理に努めます。</li> </ul>
集落内生活道路	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 歩行者や自転車にやさしい安全・安心な道路空間の創出および住民と行政の協働による維持管理を促進します。</li> </ul>
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>● のみバスの利便性向上による利用促進に努めるほか、地域ニーズに応じた多様な移送サービスの確保などにより、地域生活拠点と集落の連携強化を図ります。</li> <li>● 公共交通の積極的な活用による利用促進を図ります。</li> </ul>

## B. 公園緑地

都市公園	<ul style="list-style-type: none"> <li>● サイエンスパーク1号公園などについては、良好な自然の恵みを活かしながらレクリエーションや健康づくりの場として充実を図ります。</li> </ul>
その他の公園・緑地	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各町会に整備されている小公園については、施設の整備状況に合わせて地域コミュニティ醸成の場、子ども達の遊びの場として充実を図るとともに、適切な維持管理を推進します。</li> </ul>

## C. その他都市施設等

海岸・河川・水路	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 手取川沿岸や宮竹用水などについては、関係機関との調整を図りながら水質保全など水環境の保全に努めます。</li> </ul>
供給・処理施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 上水道については、老朽化した施設・管路の計画的な更新や耐震化を進めるとともに、下水道の適切なマネジメントにより、生活環境の改善、公衆衛生の向上、河川の水質改善を図ります。</li> <li>● 廃棄物では、5R運動の推進によるごみの減量化を目指します。</li> </ul>
その他の公共公益施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大学隣接地に整備された体育館については、住民や学生が憩い・集える場として活用を促進します。</li> <li>● 小学校やその他の公共公益施設については、老朽化に応じた改修や耐震化、バリアフリー化などによる施設機能の維持・充実に努めます。</li> </ul>

### ③地域環境形成の方針

山間地の豊かな自然環境や手取川や宮竹用水などの水環境の保全を図るとともに、これらの良好な環境や文化財、健康ロードなどを活用した魅力の発信および交流の促進を図ります。

自然環境	<ul style="list-style-type: none"><li>● セツ滝などの市指定文化財については、貴重な自然植生や水環境の保全に努めるとともに、人と自然がふれ合える場所としても活用を図ります。</li><li>● 水とみどりが調和した良好な景観の保全活動を展開し、里山の保全と地域コミュニティの維持を図ります。</li><li>● 健康ロードの桜並木の保全に努めるとともに、市民の気軽な健康づくりの場として活用促進を図ります。</li></ul>
地域資源	<ul style="list-style-type: none"><li>● 滝浪社や岩根宮については、貴重な歴史資源として環境の保全を図ります。</li></ul>
景観	<ul style="list-style-type: none"><li>● 里山地区や山間地区のみどり豊かな景観の保全に努めます。</li><li>● 加賀産業開発道路沿線については、いしかわ景観総合条例に基づき、その遵守に努めます。</li></ul>

### ④安全・安心な地域づくりの方針

里山・山間地区の土砂災害防止対策などの防災機能の充実とともに、防犯機能や交通安全の強化、地域福祉による支え合いなどにより、住民がいつまでも、安全に安心して生活することができる地域づくりを推進します。

防災	<ul style="list-style-type: none"><li>● 地域東部の里山地区・山間地区において、土石流危険区域や急傾斜地崩壊区域が集中しており、関係機関との調整を図りながら区域内の地すべりや土石流・崩壊防止の対策に努めます。</li><li>● 近年頻発している震災および大雨等に対して、自主防災組織の結成・活動支援の推進や各種ハザードマップを活用した情報提供、防災情報伝達システムの構築などによる防災対策に努めます。</li></ul>
防犯	<ul style="list-style-type: none"><li>● 防犯効果の向上が見込まれる環境面に配慮したLED灯を推進するとともに、関係機関と連携した防犯意識の啓発や防犯パトロールの強化、それらを補完する防犯カメラの設置に取り組みます。</li></ul>
交通安全	<ul style="list-style-type: none"><li>● 通学路、生活道路は人優先を基本方針とし、歩行者と自動車の分離や自動車への注意喚起と速度抑制を徹底するため、ハード・ソフト対策の一体的な取組みを推進します。</li><li>● 特に、宮竹保育園、宮竹小学校周辺における子どもの移動経路等は、地元・関係機関と緊密に連携して重点的に取り組みます。</li></ul>
地域福祉等	<ul style="list-style-type: none"><li>● 住み慣れた場所で安心して暮らし続けられるよう、官・民が協力して地域の実情に合ったまちづくりを進めます。</li><li>● 身近な地域でお互いに支え合う地域活動の核となる地域福祉委員会の活動の充実を図ります。</li></ul>

宮竹地域 将来構想図

